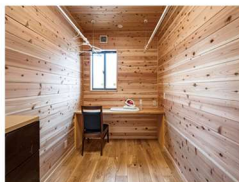




アンティークな造作収納に
お気に入りのワイングラスを。

キッチンの背面カウンターは並べる家電の数に合わせて設計。仕事や子どもの勉強に使えるように、デザインを合わせてスタディカウンターも通り付けた



2階には室内干し専用の部屋を確保。無垢の木の調湿効果プラス除湿機で夜干した衣類もしっかり乾く。乾燥後は隣のファミリークローゼットに移すだけ



洗濯機の隣のスロップシンク。汗を吸った衣類の子洗いにもひげ剃りにも高いシンクは便利



収納には太い木製梁が構えた。頑丈な構造を確証できるのが安心感につながる



玄関にはベビーカーも収納できる広めのシューズクローゼットを確保。すっきりとした空間でお気に入りの絵とリビングがアアのステンドグラスが映える

スロップシンクとコンセントと鏡も取り付けて、夫専用洗面台が完成しました。このアイデア、この家の見学会を開いた時に、同年代の見学者からも好評だったんですよ。

2階には、バルコニーの代わりに「室内干しルーム」を設けたのも、自らの家事スタイルを見つめ直しての決断。「バルコニーは古くはれば雨漏りやメンテナンスの心配もできます。それに、昼間は仕事なので、夜洗濯して、寝る前に干すというのが今の自分のスタイル。専用の部屋があればいつでも干せるし、隣にファミリークローゼットをつければ、ハンガーにかけて干した衣類をそのまま片付けられますから。ちなみに、最近はファミリークローゼットをつくる方も多いですが、寝室の奥より、衣類を取り出しやすいように、廊下に面した場所に設けることもおすすめです。」



窓の代わりに絵画を飾る
白い漆喰の空間は
ギャラリーさながら。

自分の生活と向き合うと
理想の間取りが見えてくる

これまではおさまさまのライフスタイルを想像しながら子育てしながら、料理や洗濯がスムーズにできる動線を考えてきた妻さんだが、今回「自分の生活に合う間取りとは？」と向き合うことになった。「廊下も片付けもしやすいように、キッチンとライニングは構造的にレイアウトしました。キッチンそのものに十分な収納が備わっているし、背面カウンターもあるんで、私は納戸もパントリーも設けていません。その代わりに、いろんな場所に分散して少しずつ収納スペースを確保したので、不便は感じていません。」

洗面脱衣所と浴室などの水回りはキッチンの奥に集約することで、家づくりを全面的に妻に委ねていたご主人から思いがけないリクエストがあったという。「子育て世代にスロップシンク(底の深い流し)が人気だと先話したら、「僕が欲しいから絶対つけてくれ」というので、汗がたっぷり運動したりして着替える回数が多いので、自分が汗をかいた服を洗濯前に予洗いでささるところが欲しかったそう。ついてはひげ剃りもできるようにしたい」というので、洗濯機の横に